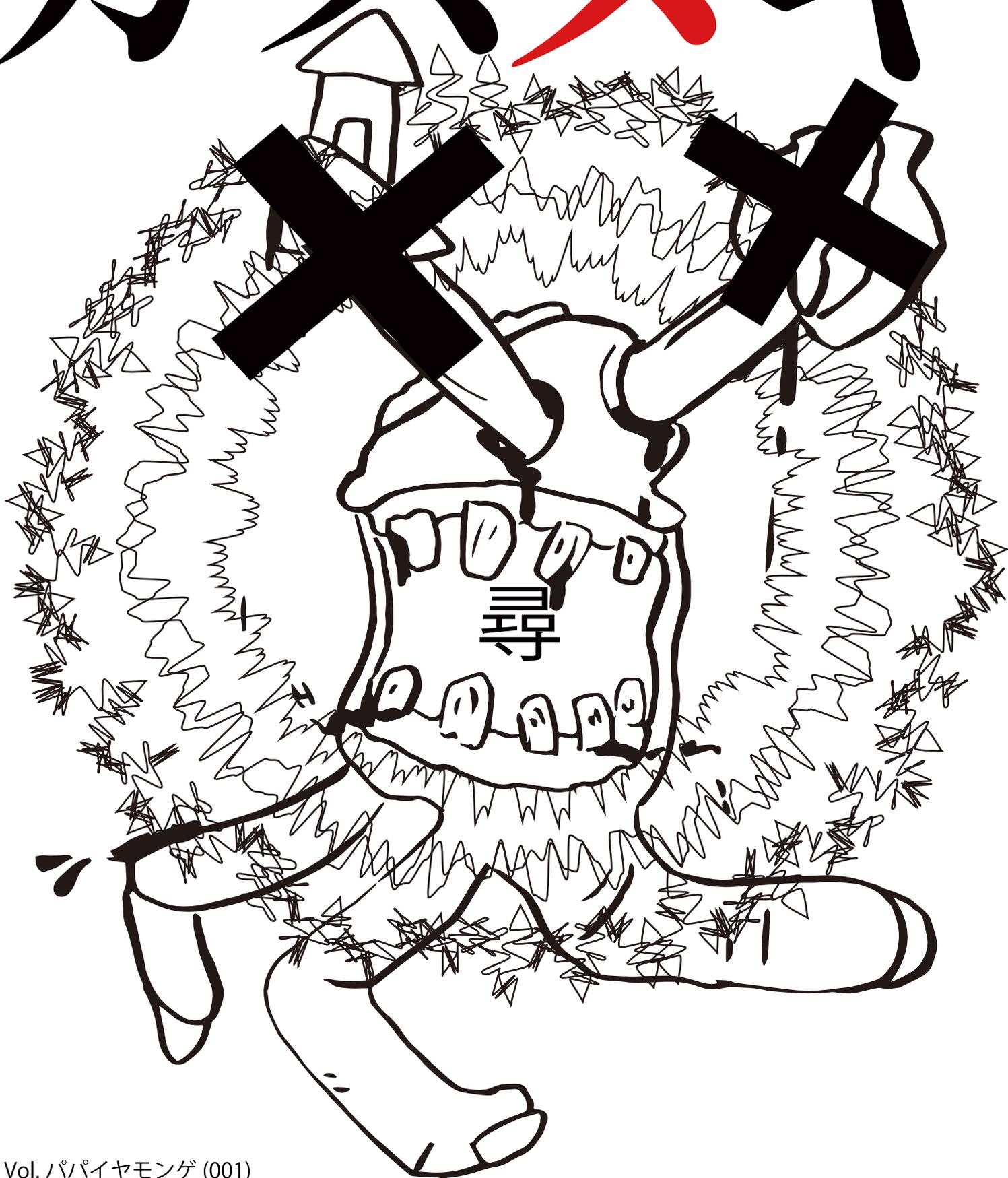


黒パブリカの

# ガス又キ



黒パプリカのガスヌキとは

創作しか能がない社会不適合者たちが

作品を作ること（ガスヌキすること）

によって軽度の犯罪（奇声を発する等）

に走らないようにするための

犯罪自己抑止フリーペーパーです。

黒パプリカ

久々に鳴ったインターホンに伊藤は驚いた。伊藤を訪ねてくる人は少ない。アリジゴクはウスバカゲロウになることを知っている人くらい少ない。伊藤は、その贅肉をもすもすと揺らしながらインターホンにでる。

「マハラジャ運輸ですみす。みゆ、伊藤様宛に着払いの荷物が届いておーります」

伊藤には全くもって身に覚えがない。この場で断ることもできたが「ついにこんな日がきたか」と思った。いや、これは本当にすごく感覚的なもので、本当に身に覚えがないのだが、こうなることを期待していた自分もいた。

「おぐさけます。おぐさりますか」

「ハハ〇円じゃあ」

いかにも着払いっぽい値段だったので伊藤はほんの少し笑いながら「はい」とだけ言った。メガネをかけ、財布を持ち玄関に向かう伊藤。玄関の扉を開けると、マハラジャ運輸らしき人間が立っていた。

「おぐさりますか」

噂には聞いていたが、マハラジャ運輸の人間は何かがおかしい。とりあえず、財布の中から八七〇円を探す伊藤。しかし、お札はあるが小銭では八四〇円しかなかった。そこで、伊藤はカマをかけてみた。

「八四〇円じゃあ」

マハラジャ運輸の人間は困った様子で「みーん」と答えた。……みーん？

——約十分が経った。玄関先で小太りの中年男と何かがおかしい運送会社の人間がなおも対峙している。この状況に合うBGMはこの世にあるだろうか。すると、マハラジャ運輸の人間は「いいたます。いいたます」と答えた。伊藤は「今回だけ特別ですよ」というふうに解釈し、八四〇円を渡した。

「おぐさりますか」

伊藤は曖昧ながらも芸人の誰かがやっていたボケだと気づいて、大声で「ルネッサンス！」と叫んだ。

五分ほど沈黙が流れた。合計十五分以上、何かがおかしい人間と対峙している。すると、マハラジャ運輸の人間は「みやお」と言い、その場から立ち去った。さて、伊藤の目の前に身に覚えのない着払いの荷物がある。送り元は岐阜県だ。伊藤の感覚としては、岐阜県に人は住んでいないかと思っている。そんな場所から荷物が届いたのだから、伊藤にとっては恐怖である。この恐怖を一字で表すと『せ』である。

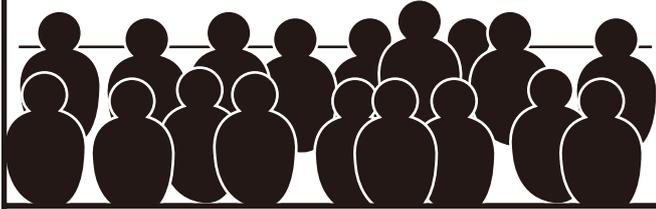
それくらい恐怖なのだ。しかし、それ以上にワクワクが止まらない。ベビーカーを押す若い女くらい止まらない。荷物の簡易的な封をやぶり、恐る恐る箱を開ける伊藤。箱の中には、小さな伊藤の顔が×××の等間隔に置かれていた。伊藤はとても驚き、そのはずみでメガネが箱の中に落ちた。小さな伊藤の顔を手に取って、目の前で観察してみる。感触はつくねみたいだ。今、手に持っている伊藤の顔の表情はを

発音するときの顔だろう。箱の中から伊藤の顔を一つとったから、底が見えた。鏡張りだ。鏡に映った自分を見る伊藤。伊藤は笑った。笑ったときの伊藤の歯はすごく緑色だった。

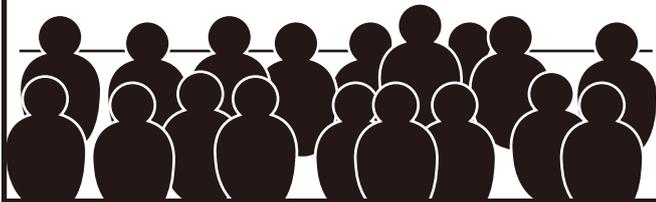
# ありがたい四こま

## みっくす

タイガー！ファイアー！  
サイバー！



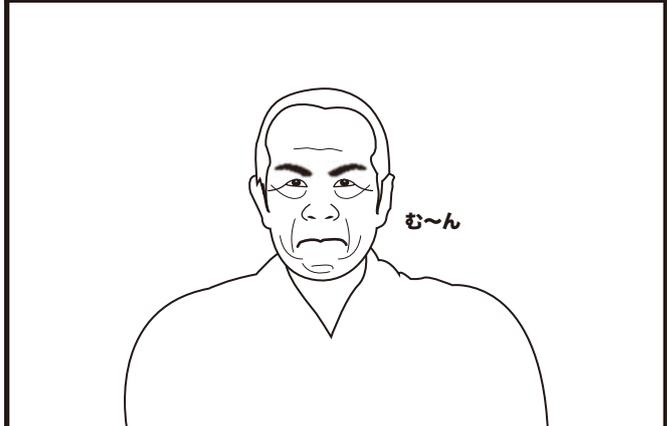
ファイバー！ダイバー！  
バイバー！



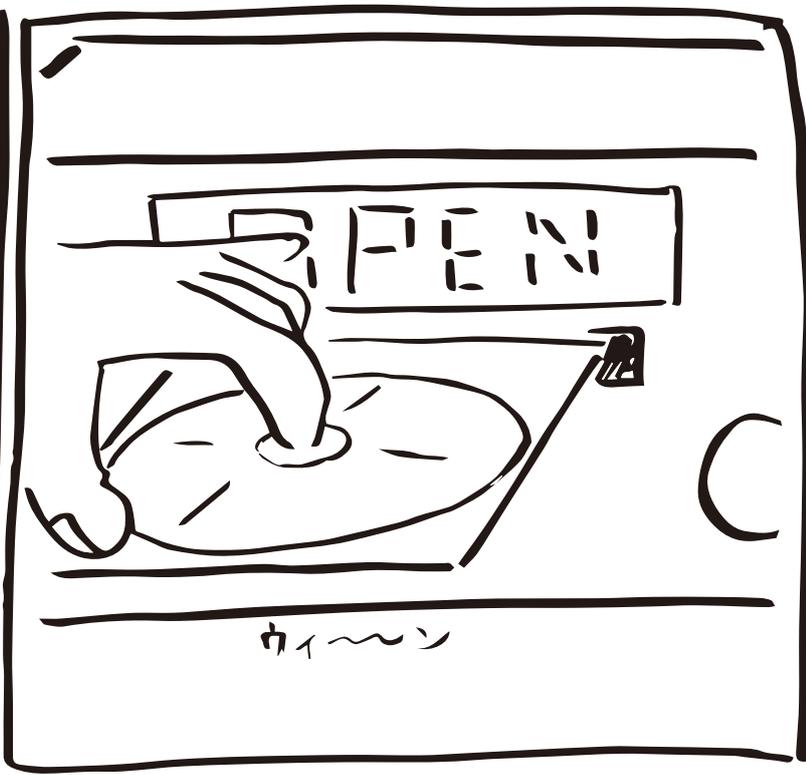
南無



## スーパー木久扇タイム



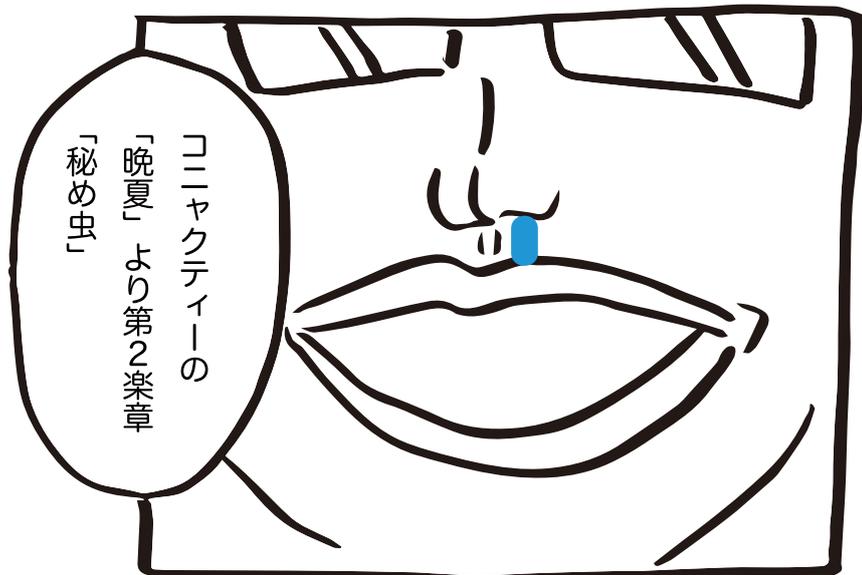
宇宙の法則が  
乱れだす！



おーぞいおの  
鬼

作 うるふ

キ





ソールリット社のMA90ZE2（フルメタルヴァー  
ジヨン）は内蔵された半導体の特性で波長の長い音  
にプラスアルファでブラウン定数回転音を加える。  
それにより「秘め虫」に使われている楽器シーボツ  
サーゴの音が必要以上に聴こえる。鼓膜が濃厚の音  
に満たされるのだ。



また、ソールリット社独特の電気回路により磁界によ  
る音のゆらぎ（これを「チャシツァー」と呼ぶ）を  
増幅させ、もはや他の音楽と化す。別の楽器がもう  
一つ増えたようなものなのだ。余談だが、ソールリ  
ット社は元々赤松堂の子会社だったが、赤松堂の専務  
が某パネルアタッククイズ番組に出演し見事優勝。  
優勝したお金で独立し現在に至る。



それは  
吾の葬音也!  
あ ろ おん なり



# ありがたい四こま

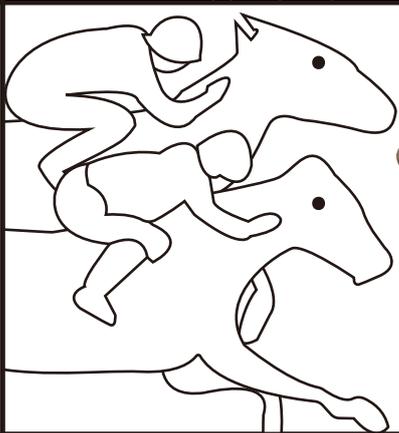
## 写真判定



二頭の熾烈な  
争いです！



二頭の間から  
何かが来ています！



二頭まとめて  
差し切りました！

埼玉の今川焼き



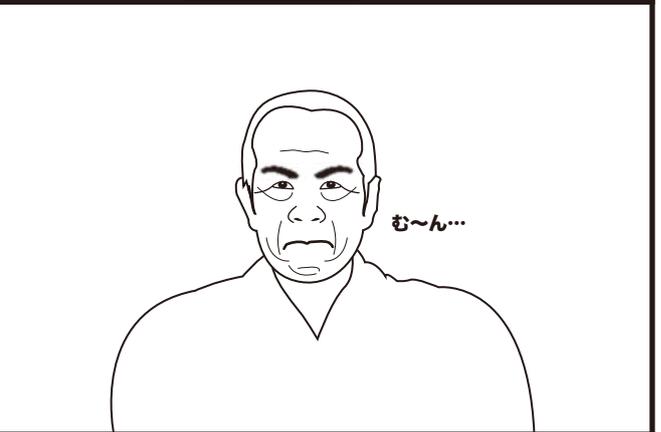
お土産にどうぞ。

## スーパーキクオータイム2



はい、キクオーさん

つあん！



む〜ん…

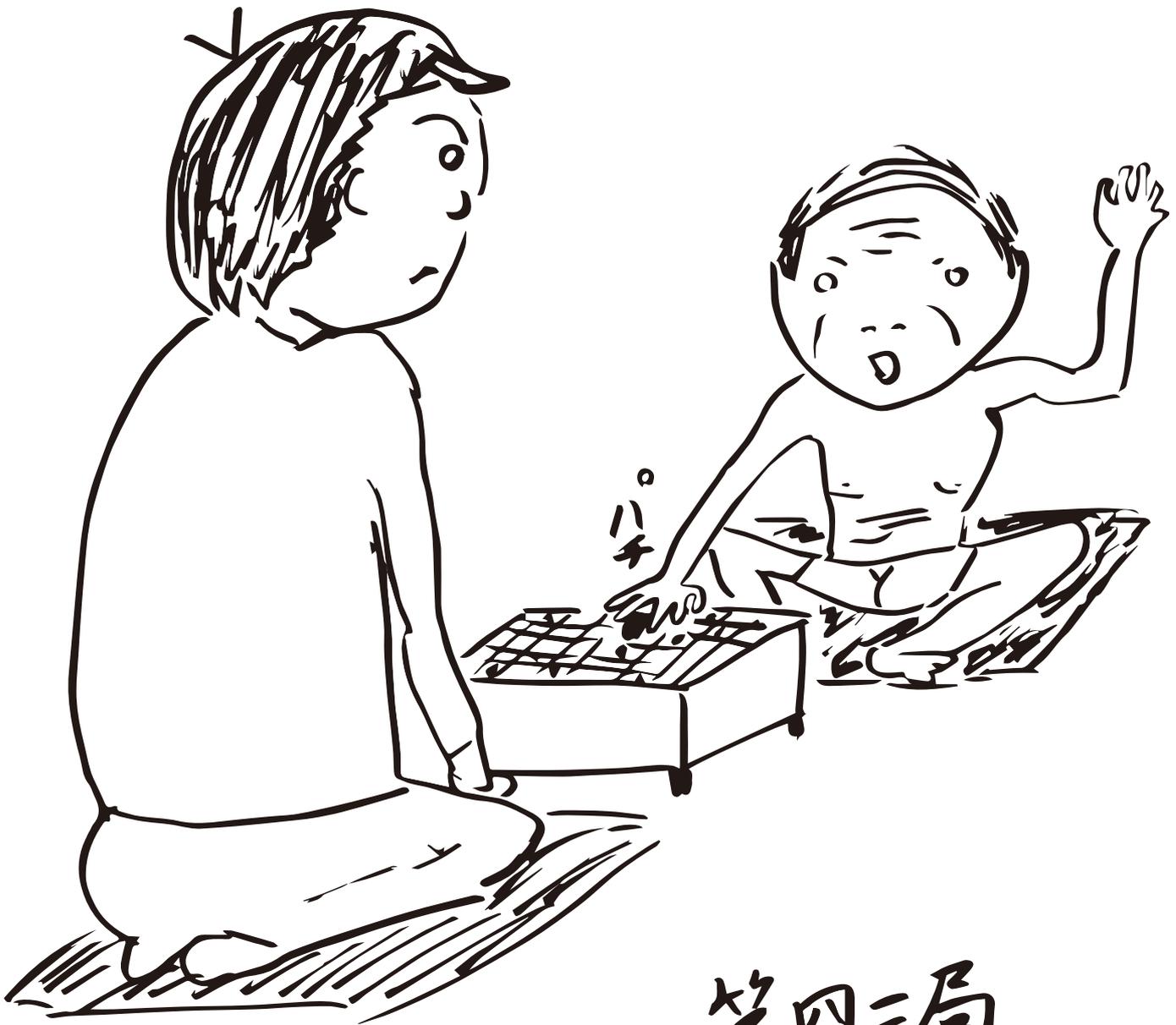


肘からラーメンが  
出るようになった！  
じやうじやう！



キクオーよ  
永遠に……っ！

# 棋王 - KIOH -



第四三局

悪魔老人の証明

作：うさ、

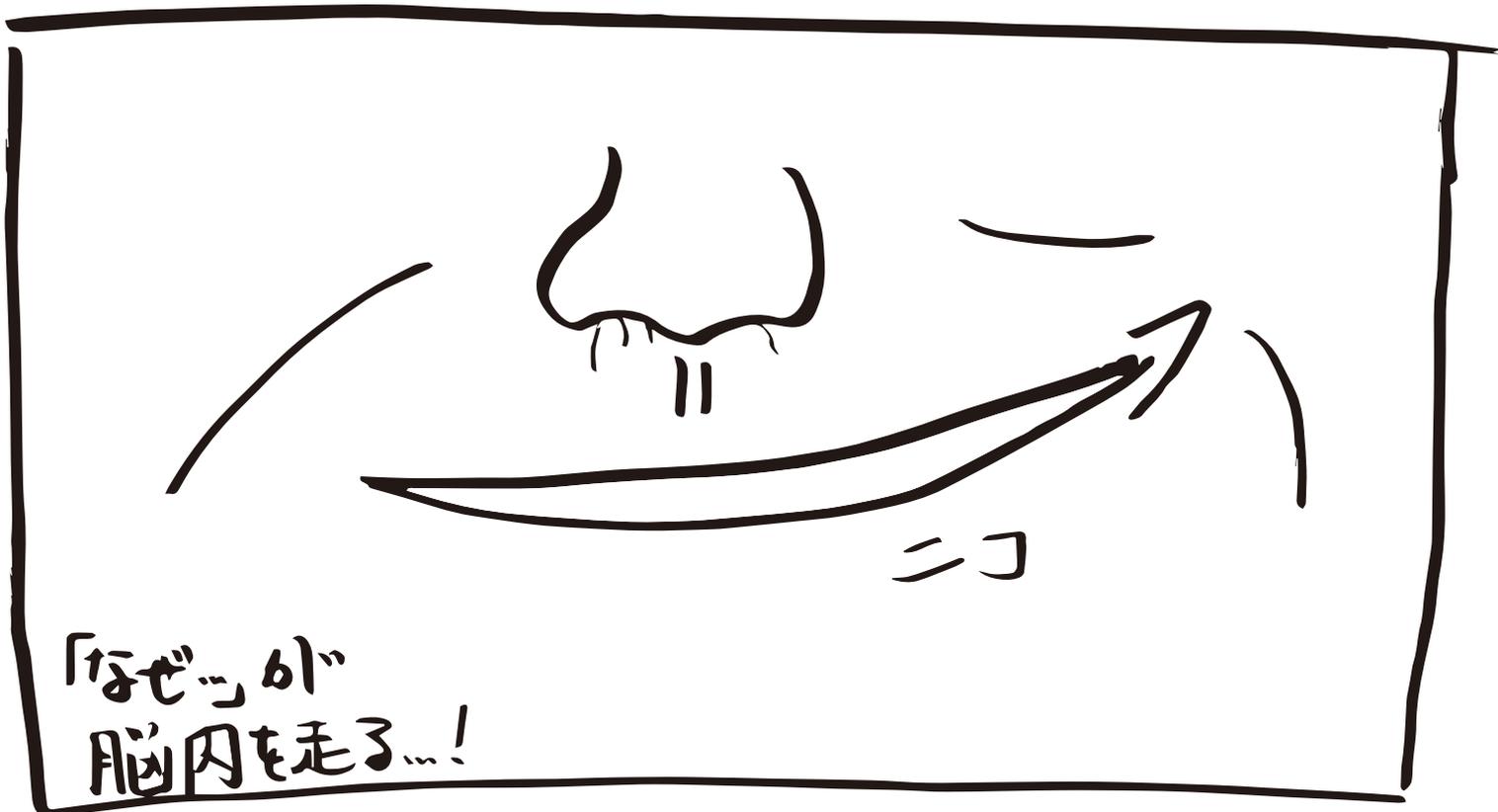
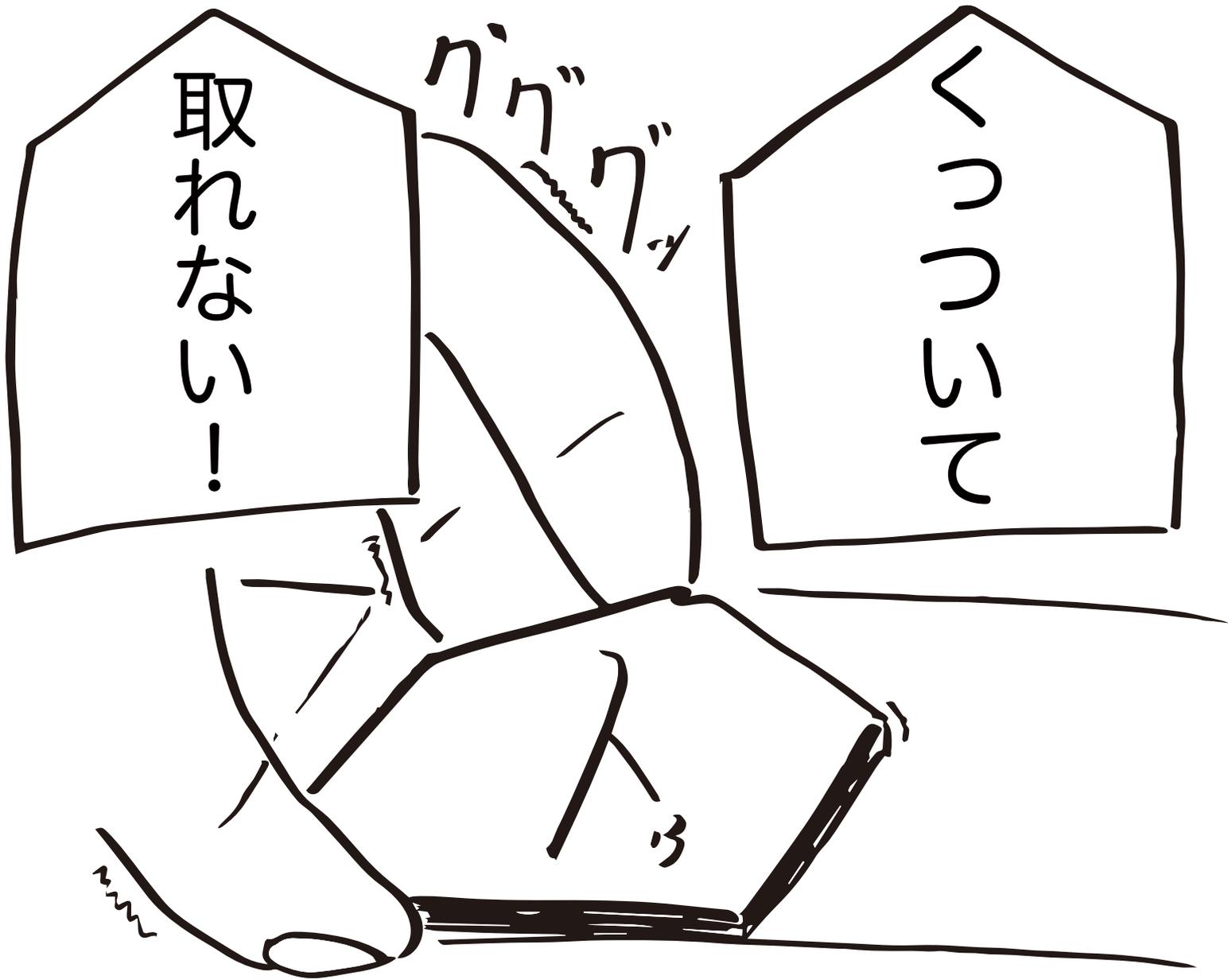
さすがだ。  
強い。  
悪魔老人っ！



でも僕も負けてられない！

クッ



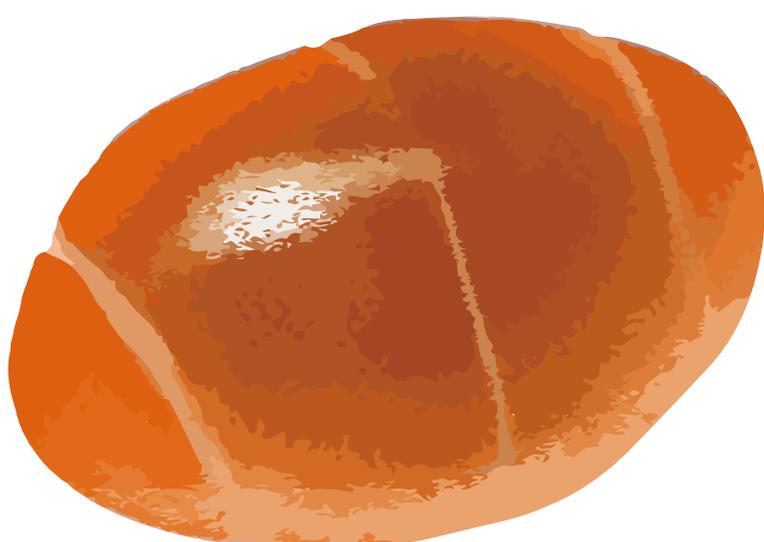


次回、シックスビューズ犬

もう彼と付き合って3年になります。付き合い初めは毎日毎日、お猿さんのようにお互いを求め会っていました。しかし、良い意味でも悪い意味でも『慣れ』てしまいます。彼との夜が億劫になっっている私がいきました。彼の事は本当に愛していますが、これからも関係が続けていくには夜の方も新鮮なものが望ましいです。最初は野外で、その次は利用者の少ない電車内で、挙句は彼の目の前で違う男性に……そんなこともありました。そんな甲斐もあり彼とは心も体も本当に満たされていました。

そんなある日、彼が「今日はオーソドックスなsexをしよう」となりました。すでに彼の股間はマウンティンマウンティンしていました。私の肉棒もマウンティンマウンティンしています。ローションを秘汚穴（あな）に塗ってもらい、準備万端でした。そのときに初めて気づいたのですが、彼の耳がおいしそうでした。まるで、こんがり焼けた光沢のあるバターロールパンのようでした。私は思わず彼の耳にかぶりつき、噛みちぎりました。咀嚼して嚥下するのにもったいないので、噛みちぎった彼の耳を私のアナルに入れました。「やりすぎちゃったかも……」と私は思っていました。彼は出血している耳付近にタオルを当てながら「いやいや、カイジかよ。はっはっは」と言ってくれました。

その日、彼は私の大好きなパイナップルを買ってくれました。



# 黒パプリカのガスヌキ

いかがでしたでしょうか。これからも軽犯罪を犯さないためにつくり続けていきます。

ホームページや Twitter やっています。ご連絡はどうぞお気軽に。

E-mail [kuropaprika@gmail.com](mailto:kuropaprika@gmail.com)

ホームページ <http://kuropaprika.nobody.jp/>

Twitter <https://twitter.com/kuropaprika>

